

企業ニュース JSR

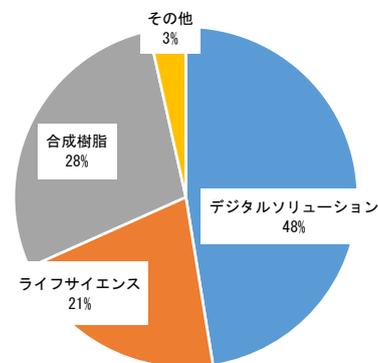
(東証1部：4185) <https://www.jsr.co.jp/>

作成者：兵藤三郎

創業事業を切り離し、ファイン事業を推進

1957年、「合成ゴム製造事業特別措置法」施行により、日本合成ゴムとして設立された。1969年に民間会社へ移行、エマルジョンや合成樹脂などの石油化学系事業を展開。高分子技術を活用し、半導体材料・ディスプレイ材料・光学材料などファイン化学にも事業領域を広げてきた。1997年に現在の社名に変更。2021年5月、自動車用タイヤなどに用いられるSBR（スチレン・ブタジエンゴム）などを製造するエラストマー事業の譲渡を発表。創業事業でもあるエラストマー事業を分割し非継続事業に分類した。同事業は、競争法などに基づき各国の許認可等の取得完了を条件に、2022年4月1日にENEOS社に譲渡される予定。今後は、半導体フォトレジストを中心としたデジタルソリューション事業、CDMO（医薬品製造開発受託）などを展開しているライフサイエンス事業に注力していく。

◇22.3期会社計画売上収益構成比



(出所) JSR資料よりCAM作成

半導体用材料の売上収益、CDMO事業のパイプラインが拡大

22.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は、売上収益が1,682億円、前年同期比21%増、コア営業利益が231億円、同39%増（今期よりエラストマー事業を非継続事業に分類、売上収益、コア営業利益に含まず、増減率も組み替えて算出、以下同じ）。半導体材料が伸長したデジタルソリューション、CDMOはじめ各事業とも売上収益が拡大したライフサイエンスが業績をけん引、コロナ禍からの需要回復を受け販売数量が回復した合成樹脂も増収増益を確保した。

22.3期の連結業績の会社計画は、売上収益が3,465億円、前期比11%増、コア営業利益が525億円、同39%増。好調に推移した上期実績に加え、当社における主要な需要先である半導体市場やバイオ医薬品関連市場などが好調に推移しており、従来計画を売上収益で285億円、コア営業利益で95億円上方修正した。CDMO事業における資材不足影響は解消、10月以降通常のオペレーションに戻っていると発言された。23.3期には能力増強投資効果も期待でき、ライフサイエンス事業の業績貢献が引き続き期待できよう。さらなる能力増強投資の必要性にも言及された。

[株価動向・投資判断]

デジタルソリューション、ライフサイエンスの伸長による中期的な業績成長を期待。CDMO事業における懸念が解消したことも安心材料となろう。

<4185 JSR 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	コア営業利益	営業利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	471,967 (▲5)	33,236 (-)	32,884 (▲27)	22,604 (▲27)	104.4	60.00
21.3	446,609 (▲5)	25,963 (▲22)	▲61,633 (-)	▲55,155 (-)	▲256.7	60.00
22.3 予	346,500 (11)	52,500 (39)	52,300 (53)	35,500 (-)	165.1	70.00

(注1)コア営業利益は営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出

(注2)22.3期・第1四半期より、エラストマー事業を非継続事業に分類。22.3期の伸び率は21.3期の業績を同様に組み替えて算出



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価 (2021/12/10)	4,320 円
年初来高値(高値日)	4,465 円 (21/12/9)
同 安値(安値日)	2,809 円 (21/1/4)
予想P/E R (22.3 予)	26.2 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,626.2 円
P/B R	2.66 倍
予想配当利回り	1.62 %
(1株当たり配当金年70.00円)	
R/O E (21.3)	▲ 15.1 %
発行済み株式数	22,613 万株